

VIII いも類の病虫害防除

かんしょ（さつまいも）

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型・病虫害名													
普	通					▲ 定植		▲			■ 収穫	■	
黒	斑												
つ	る												
基	腐												
ハ	ス												
イ	モ												
コ	ガ												
ネ	ム												
シ	類												

黒斑病

留意事項

- 1 糸状菌（かび）の一種によって引き起こされる土壌病害であり、苗床、本ぽ、貯蔵中にも発病する。
- 2 本ぽの土壌害虫（コオロギ類、コガネムシ類など）の食痕からの発病が多い。

防除方法

- 1 連作を避け、輪作する。
- 2 種いもは無病地産のものを用いる。
- 3 無病苗を用いる。
- 4 発病苗床の土は、翌年には使用しない。
- 5 種いもは丁寧に扱い、傷を付けないようにする。
- 6 土壌害虫（コガネムシ類など）の防除に努める。
- 7 種いもの消毒後は、なるべく早く伏せ込む。
- 8 温湯消毒の場合は、種いもを47～48℃の温湯に40分間浸漬後、低温にあてないように伏せ込む。
- 9 下記のいずれかの薬剤で、種いもや、さし苗基部を処理する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) <1>
 - 【種いも重の0.4% 種いも粉衣 植付前／1回】または
 - 【500～1000倍 20～30分間苗基部浸漬 植付前／1回】
 - ・ [ベンレートT水和剤20](#) <M3> <1>
 - 【20倍 1分間苗基部浸漬 植付前／1回】 または
 - 【200倍 30分間苗基部浸漬 植付前／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

つる割病

防除方法

- 1 種いもは無病地のものを用いる。
- 2 抵抗性品種(高系14号など)を用いる。
- 3 苗床、本ぽを土壌消毒する。(XⅢ 土壌消毒 参照)
- 4 植付け前または、さし苗時に下記のいずれかの薬剤を施用する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) <1>
【500～1000倍 20～30分間苗基部浸漬 植付前／1回】または
【500～1000倍 株元かん注 さし苗時／1回】
 - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【500倍 17時間苗基部浸漬 植付前／1回】

基腐病

留意事項

- 1 令和4年9月、府内で発生が確認された。今後、発生が広がる可能性があるので、注意が必要である。
- 2 罹病すると葉が赤変、黄変し生育不良となる。茎は地際部が暗褐色から黒色になる。秋頃から一気に枯れ上がったように見える場合が多い。
- 3 塊根は、なり首側から褐色～暗褐色に腐敗することが多い。
- 4 感染した種いもと苗で、ほ場内に侵入する。罹病残さで越冬し、翌年の一次伝染源となる。
- 5 QoI剤<1 1>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 出自の明らかな無病苗を使用する。
- 2 ほ場の排水対策を十分に行う。
- 3 植付前に下記薬剤で土壌消毒する。
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
【30kg／10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する 植付21日前／1回】
 - ・ [フロンサイド粉剤](#) <2 9> 【40kg／10a 全面土壌混和 植付前／1回】
 - ・ [フロンサイドSC](#) <2 9>
【500ml／10a 全面散布土壌混和 植付前／1回】または
【500ml／10a 全面土壌散布 植付前／1回】
- 4 苗床で発病を確認した場合は、土壌ごと抜き取り、適切に処分する。
- 5 植付前の苗消毒を徹底する（消毒済の苗は使用農薬を確認する）。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) <1> 【500～1000倍 30分間苗浸漬 植付前／1回】
 - ・ [ベンレートT水和剤20](#) <M 3> <1> 【200倍 30分間苗浸漬 植付前／1回】
- 6 発生ほ場で使用した農機具や資材は洗浄や消毒を十分に行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 7 被害株は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。また、周辺株への感染予防のため下記の薬剤を散布する。
- ・ [Zボルドー](#) <M 1> 【500倍 ー／ー】
 - ・ [ジーファイン水和剤](#) <NC> <M 1> 【1000倍 前日／ー】
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 14日／3回】
 - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【2000～3000倍 前日／2回】
- 8 栽培終了後、ほ場に残った残さはほ場から持ち出し、適切に処分する。
- 9 発生が激しいほ場では、2年以上かんしょ（さつまいも）の栽培を中止する。

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [アクセルフロアブル](#) <2 2 B> 【1000～2000倍 前日／3回】
 - ・ [トレボン乳剤](#) <3 A> 【1000倍 7日／3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <1 3> 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [アファーム乳剤](#) <6> 【1000～2000倍 7日／3回】
 - ・ [ベネビアOD](#) <2 8> 【4000倍 7日／3回】

イモコガ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [スミチオン乳剤](#) <1 B> 【1000倍 7日／5回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【3000倍 7日／5回】

コガネムシ類

留意事項

- 1 ドウガネブイブイ、アオドウガネ、ヒメコガネ、アカビロウドコガネ等コガネムシ類の幼虫が塊根の表面を食害する。
- 2 成虫はかんしょの葉をあまり食害しないので土中の幼虫の防除が中心となる。

防除方法

- 1 土中の幼虫を防除するため、下記の薬剤を植付前に施用する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アクタラ粒剤5](#) < 4 A >
【コガネムシ類幼虫 6～9kg/10a 全面土壌混和 植付前/1回】または
【コガネムシ類幼虫 6～9kg/10a 作条混和 植付前/1回】
 - ・ [ダントツ粒剤](#) < 4 A >
【6～9kg/10a 全面処理土壌混和 植付前/1回】または
【6～9kg/10a 作条処理土壌混和 植付前/1回】
 - ・ [フォース粒剤 劇](#) < 3 A >
【コガネムシ類幼虫 9kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和 植付前/1回】
- 2 上記の薬剤を施用しなかった場合は、7月中旬～8月中旬に下記の薬剤を施用する。
- ・ [ダイアジノン粒剤5](#) < 1 B >
【コガネムシ類幼虫 4～6kg/10a 作付前：全面土壌混和または作条土壌混和、
作物生育中：作条処理して軽く覆土 30日/3回】

ネコブセンチュウ

防除方法

- 1 連作を避ける。
 - 2 植付前に下記の薬剤を施用する。
- ・ [ネマトリンエース粒剤](#) < 1 B >
【10～30kg/10a 全面土壌混和 植付前/1回】 または
【15～20kg/10a 作条土壌混和 植付前/1回】
 - ・ [ネマキック粒剤](#) < 1 B > 【15～50kg/10a 全面土壌混和 植付前/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。